

《指導目標》

- 生徒本位の塾を目指します。
生徒やご家庭が塾に望むことをまず考え、可能な限りそれに応える形で授業の提供をしていくという姿勢で塾を運営しています。
- 生徒が安心して通える塾を目指します。
感染症対策も含めた教室管理に気を配り、講師についても生徒にとって身近な存在として接していくことを大切にしています。
- 生徒に時間や精神面での負担がない塾を目指します。
生徒の様々な事情にも耳を傾けながら可能な範囲で対応しています。
- 保護者の方がお子さんを安心して通わせられる塾を目指します。
安心をいただくためには塾への信頼、十分な情報提供、対応力が不可欠です。生徒本位を基本に誠意と熱意をもって対応しています。教育、受験に関する情報提供と生徒に関する情報共有を大切にしています。学校やご家庭の事情にも極力対応しています。
- 保護者の方の経済的負担が少ない塾を目指します。
選択肢を増やして無駄のない受講を提供するよう努めています。また受講教科以外の教科でも積極的にサポートしています。
- 生徒の深い理解に繋がる質の高い指導を目指します。
モットーでもある“物事の本質”の理解を目指して指導に当たっています。
- 生徒が最良の結果を出せる塾を目指します。
ご家庭や生徒の事情も踏まえた最も有効な手立てを提案、提供するように努めています。生徒自身の成長や学校の成績など、個々の生徒にとっての“最良の結果”を目指します。
- 生徒が学ぶ喜びを感じられる塾を目指します。
理解の先にあるものを感じてもらえるように指導に当たっています。
- 役割を明確にし、それを実現できる塾を目指します。
当塾だからできること、当塾しかできないことを明確にお伝えした上で、通塾して受講していただくようにしています。
- 周辺地域の生徒さんや保護者の方へ貢献できる塾を目指します。
当塾に直接関わらないご家庭にも、無料公開セミナー等で入試や教育改革等についての有益な情報などをお伝えしています。

《指導方針》

物事の本質の理解を大切にします。

- 基礎を重視しながら本質的な理解を大切にします。本質の理解がしっかりとできれば定着や応用にもつながります。
- 教具の使用も工夫して、視覚的(体感的)な学習ができるように努めます。

教える側も教えることの本質を見据えて指導に当たります。

- 「なぜ解けないの？」という言葉をやや安易に生徒にかけることはありません。解けない理由、あるいは解こうという気持ちを強く持てない理由を考えるとところから指導が始まると考えています。
- 答えが間違っていた場合、正しい考え方の説明から始めるのではなく、本人がなぜそう考えたかを確認してから一緒に修正していく形をとるように心掛けています。
- 宿題をやって来なかった場合は、単に注意するのではなく必ずその理由を聞いてから、一緒に問題点を確かめて解決策を考える、そして助言するという対応をしています。

個々の生徒の学習目的を踏まえて指導に当たります。

- 保護者の方の要望、場合によっては生徒自身の希望なども合わせ、教室で学習する趣旨(目的)を念頭において指導を進めます。細かな状況変化にも最善の対応ができるように心がけます。
- 使用教材や授業の進め方、宿題の内容や出し方など、個々の生徒学習メニューを保護者の方とご相談してから授業を始めます。学習における生徒の状況の変化に合わせて学習メニューも変更していきます。

勉強に対する生徒の安心感を大切にします。

- 実際の学校の授業内容の理解度や生徒自身の不安などに気を配りながら教室での指導を進めていきます。授業の始めに学校の授業内容や進度確認した上で、自分が理解できているか、難しくないかなど、生徒の状況や不安感などを確認しながら、教室での学習内容等に反映させて、安心して学校の授業に臨めるようにします。
- 授業では学校のまとめテストの予定も確認して、状況に応じてその日の学習内容や宿題を変更して対応します。
- 準拠ワークで具体的な予習復習をすることで学校の授業への不安を軽減します。特に算数では積極的に準拠ワークを利用しています。
- 英語でも毎回、学校の授業で行ったことを教科書で確認して、必要に応じてその箇所の単語や表現の復習をしたり、テスト前に簡単な発話トレーニングもします。

学習事項と生徒の距離が縮まるように努力をします。

- 説明の中にできるだけ身近な事象(事柄)を取り入れて、学習内容と日常がつながっているという意識を持ってもらうように努めます。
- 勉強することは、身近なこと、役立つこと、豊かにしてくれることだと生徒が捉えてくれることを念頭に指導に当たります。特に英語の授業では、中学以降の勉強や日常とのつながりを伝えるようにしています。

生徒が学習することに納得して臨めるように努めます。

- 「こんなこと、なんで勉強しなきゃいけないの。後で使うの。」という生徒の常套句にしっかり答えながら指導に当たります。

宿題の出し方にも気を配ります。

- 学校や家庭、他の習い事などの事情も考慮して基本的な宿題の量を決めます。曜日ごとに宿題の出し方を変えている生徒もいます。
- 家庭や習い事、体調など短期的な生徒の事情にも合わせて宿題の出し方を適応させます。

生徒の学習習慣の定着を図ります。

- 習慣として家庭学習が定着するように、宿題の出し方などにも気を配ります。普段のような形で宿題をこなしているのか、できていない場合はどのように修正していくかなどを保護者の方と確認やご相談をして、なるべく良い形で家庭学習が進められるように修正していきます。

家庭での宿題の出し方も把握しながら指導します。

- 宿題は生徒自身でできるものを出しますが、家庭でどなたかが補助をされることがある場合には、その状況も伺って、教室での対応に生かします。

生徒の学習状況や理解度などを保護者の方と共有できるように工夫をします。

- 毎回の授業の状況や宿題をお伝えする連絡ファイルを活用しています。
- 講師が採点に使うペンの色を毎回替えるなどして、ご家庭で使用教材の修正箇所などを見た時に、お子さんの状況が一見して分かるように工夫しています。
- 算数では生徒の多くが教科書準拠ワークを利用しています。宿題として持ち帰った準拠ワークを見て、保護者の方も学校の学習内容の進捗や生徒の理解度をおよそ把握できます。

生徒や家庭の負担を少なくして、無理や無駄のない受講形態を提供します。

- 通常授業、特別講習ともに、受講教科、受講回数、授業内容、宿題の内容など、受講全般について最大限に自由度を高め、有益な受講をしていただくようにしています。

毎週固定の講師が指導に当たります。

- 算数と国語の場合、塾長が常に指導に当たり、時間帯によって他の講師も指導に加わる形となります。各講師は曜日固定で担当しますので、週によって担当講師が異なるといった状況はありません。各講師は生徒の状況を把握しながら継続的に指導に当たります。
- 英語の授業は全て塾長が指導に当たります。

学習状況は塾長が管理して保護者の方にお伝えします。

- 算数と国語の授業では他の講師も指導に当たりますが、基本的に塾長が進捗や生徒の状況を把握して情報を管理します。

担当講師が誠意、熱意、愛情をもって指導します。

- 算数・国語では経験の浅い講師が採点や指導の補助につくことがあります。生徒の学力や意識の向上を目指して努力します。

生徒の“自発”“自主”“自立”を大切にします。〔算数、国語〕

- 教室では“自発”につながるような声かけをするよう心掛けていきます。学習に対して消極的な生徒の場合は、生徒の興味ややる気を意識した教材選びをしています。また学習に積極的な生徒の場合は、生徒自身の考えを教材選択に取り入れることもあります。
- 生徒自身の声に耳を傾け、学習内容にも可能な範囲で反映させます。“やらされている”でなく“自分の意志でやっている”という意識で生徒が学習に臨むことが大切だからです。自分の進捗や理解度を日頃から具体的に意識することで生徒が明確な目的意識をもつことにつながります。
- 生徒が学習内容に展望をもって納得しながら学習できるようにします。例えば「今は学校と同じところを進めて、苦手な図形は夏休みに頑張ろう。」というような声かけをしていきます。
- 算数の既習内容の問題は、まず一度自分で取り組んでみるというのが基本です。講師は生徒の様子によって対面での指導で対応をします。個々の生徒に合わせて適度な自立を促しながら、必要とあらばしっかりとケアしていくという形で指導を行っています。

“個々の生徒に合った教材”にこだわります。〔算数、国語〕

- 単に生徒のレベルに合わせて選択するのではなく、生徒にとってどのような学習をしてもらうのが良いのかを考えて選択します。様々なタイプの教材から個々の生徒の学習に合わせたものを複数選択し組み合わせ使用します。状況変化にも直ぐに対応させて教材変更をします。
- 教科書に沿った準拠ワークの利用についても慎重に判断します。特に国語では生徒のタイプに合わせて、学校の学習内容を事前に学習したり具体的なテスト対策をすることで自信や意欲につながってもらうのか、表面的な暗記で頼らない真の文章力をつけてもらうのかを事前に保護者の方と相談して利用の有無を決めます。
- 算数では、準拠ワーク以外にいろいろなタイプの計算ドリルや文章問題だけのテキスト、分数、割合、速さに特化したテキストなども使用します。
- 国語では、文章読解や文章表現(作文)トレーニング専門のテキストなどを生徒の学習目的に応じて使用しています。

作文力養成に積極的に取り組みます。〔国語〕

- 大学まで含め広範囲の学習において作文力が非常に重要になっています。中学でも今春の教科書改訂で一層その傾向が強まります。短期間では身につかない作文力が他の学習にも大きく影響していることを踏まえて、当然ながら小学部から作文力養成を重視していきます。

文章問題にも積極的に取り組みます。〔算数〕

- 計算問題だけこなして無謀に進ませ続けるというようなことはありません。教室だからこそ積極的に文章問題に取り組むようにします。もちろん個々の生徒の力に合わせた内容の問題を選択します。著しく理解が足りない場合は基本のみの指導をします。

遊びでごまかさず、本当に生徒のためになることを積み上げていきます。〔英語〕

- 小学生の英語学習が、“英語に興味や親しみを持てるようになる”ということから始まるのは良いのですが、学校も含め結局それだけで終わってしまうような学びの現場が未だに多いように思われます。「楽しいけど何を習ったかわからない。」という授業ではなく、生徒が理解することや覚えることに楽しさを見出せるような授業を展開していきます。系統的に学習を進め、地道にそして着実に英語学習の土台を作ります。

明確な学習目的をもって確実に成果につなげます。〔英語〕

- “単語の覚え方”と“文の作り方”を系統的、体系的に学習することで、驚くほどの表現力と応用力を確実に身につけていきます。生徒の安心感のための“学校の補習”は最小限に止めます。

本当の意味での英語学習の礎を確実に築きます。〔英語〕

- フォニックス(単語のスペルと発音の規則性)を系統的に学ぶことで効率よく単語を覚えられるようになります。授業化された今でも小学校では“読み”“書き”をほとんど、あるいは全く習いません。中学卒業時に必要とされる単語数がこれまでの2倍になる今、単語力の源となるフォニックスの習得を積極的に進めていきます。
- かみ砕いたユニークな説明で文法や文型を体系的に学んでもらいます。確実に表現力や応用力につながり、学校の授業で単発的に出てくる文もその構造が理解できるので自分のものになります。
- 中学や高校での英語学習の強固な礎を確実に築きます。中学英語の先取りという意味での教科書の予習はその必要がないので行いません。
- 英語教育改革が加速して進む今こそ、具体的な成果を確実に出していきます。

自信と余裕をもって中学での英語学習を始められる状況を作ります。〔英語〕

- 例えば6年生の後半だけでも受講できれば、単語の覚え方などがおよそ身につきますから、それだけでも中学での学習が非常に楽になります。2年程度受講した生徒なら文の形や表現などに対してその本質を意識して覚える感覚が身についているので、大きな余裕をもって学習できます。必然的に学校での非常に高い評価にも繋がります。
- 語学は精神的な要素も大きく関わります。中学校で本格的な英語学習が始まる時点で自信と余裕をもってのこと自体が、次のステップのアドバンテージを連鎖的に生んでいきます。

英語を恥ずかしがることなく堂々と発話できる習慣をつけていきます。〔英語〕

- 小学校の時点から授業で堂々と英語を発話できるように、さらには中学や高校での英語による授業も視野に入れ、英語を身近な伝達手段としてしっかりと発声できることを目指します。

学年に合わせた学習目標を設定して授業を進めます。〔英語〕

- 生徒の個人差にもよりますが2年生くらいまでは、まず英語を学ぶという感覚を持ってもらうことから徐々にアルファベットや単語を音から進めます。3～4年生では、徐々に体系的学習に以下の生徒にも、毎回学校の英語活動の学習内容を確認しながら対応しますが、生徒が安心して自信をもって学校の授業を受けられるようにするという範囲での対応にしています。
- 高学年の生徒には個々の状態をみて英語の発声法を意識できるようにしていきます。

《指導内容》

〔算数 国語〕 (対象 小1～小6)

個々の生徒の“学習メニュー”を決めて学習を進めます

教科、回数(週)はもちろん、教室の学習内容、宿題の内容や量など生徒が最も無理なく効果的に学べるように保護者の方と細かく相談して決めます。指導内容は以下の宿題の出範囲になりますが、他のご要望にも可能な範囲で対応いたします。

前学年までの範囲の復習 (必要な場合)

細かな箇所の補習ではドリル等で部分的な復習をしたりしますが、基本の理解が明らかに不足している場合は必要に応じて2～3年前の復習も行います。その際は現学年の学習とのバランスにも配慮します。
※前学年までの復習を軸に進めていく授業は、事前に保護者の方ご相談した上で行います。

学校の授業の補習(予習、復習)

教科書準拠のワーク等を使用して、学校の授業内容の予習や復習をします。学校の単元のまとめテストの対策等も状況に応じて行います。
※学習メニューに準拠ワークでの予習と復習が入っている生徒の場合となります。

作文力の養成

通常の国語の授業でも少しずつ取り入れていきますが、今年度からは作文力養成用テキストも用意して具体的な対応を進めていきます。

学校のテストの対策

学校の単元のまとめテストなどの前に必要に応じて対策をします。
※算数はほぼ全員の生徒ですが、国語は準拠ワークで学習している生徒になります。

長期的な実力養成

実力錬成用のテキストを使用して、密度の高い習熟を図ります。
※生徒の状況によっては学校の補習に重点を置きます。

次学年の学習内容の予習

一部の生徒はご家庭の意向を伺った上で進度を調整しながら、先取りの授業をしていきます。

実践的な発展問題等の演習

一部の生徒はご家庭の意向を伺いながらハイレベルな問題も進めます。

中学受験に向けた問題演習

要望により受験対策の足掛かりとなる範囲で、または中堅校対策レベルでの対応をいたします。ただし上位校、難関校の受験に備えていく場合は、専門のコースやクラスを設けている大手塾などへの変更をご提案させていただきます。

〔英語〕 (対象 小1～小6)

英語、英語学習に触れる [小1～小2(目安)]

身近なものや事柄を英語(音声)に置き換えることに慣れるようにします。また、徐々にアルファベットにも触れながら文字学習の基礎を作ります。いろいろな教具を使用して興味を持続できるように工夫して進めます。

単語習得の基礎力の養成 [小3～小6(目安)]

アルファベットを覚えてから、フォニックス(スペルと発音の規則性)の学習を軸にした文字と音声の学習に徐々に移行していきます。言葉を作る音(声)の構成を実験なども交えて感覚的に学び、単語の捉え方を学びます。始めは単語の中の一文字の音から‘sh’や‘ir’など二文字の音の学習に移行していきます。初見の単語も読めるようになっていきますし、音からスペルを推測できるようにもなります。

基本文法の理解力の養成 [小4～小6(目安)]

単語の本質的な意味にも触れながら、シンプルな基本文をかみ砕いたユニークな説明で体系的に学んでいきます。中学校でも教わらない、it、that、anyなどの基本単語の本当の意味をしっかりと学ぶことで、感覚的に文の正しい解釈ができるようになります。またbe動詞を“働き者”、一般動詞を“怠け物”に例えながらそれぞれの文の特徴を明確にするなど、小学生なりに容易に文の構成を理解できるようにしていきます。進行形やcanを用いる文、さらには過去形の文なども学習範囲に入っています。個人差がありますが、およその目安として2年程度で中学1年生の主な文法事項をしっかりと学ぶこととなります。

学校の授業の補習 [小5、小6]

基本的には毎回授業で学校の授業の内容を確認して、必要に応じて補習もします。表面的、断片的な学習になりがちな学校での学習を無駄にしないため、そして生徒に安心感を持ってもらうため、単語や文の発話練習やリスニング練習をすることもあります。

中学英語の範囲の予習 [小6]

複数年受講し学習が進んだ生徒は、中学用のテキストでより具体的な中学英語の学習を進めます。ただし教科書の予習はしません。必要ありませんし、中学での授業が余りにも辛くなるからです。

◆その他の対応

○1対1の完全個別指導

通常の算数・国語のコースとは別に、短期の補習授業や英検対策などに対応します。

○「東京都統一テスト」(東京私塾協同組合主催 / 進学研究会協賛)

4年生から6年生を対象とした業者テストを教室で受験できます。

○個人面談

学習面、生活面などご家庭と教室で情報の共有をします。年に複数回、教室からお願いしますが、ご希望があればいつでも対応します。

○説明会

教育関連の情報や当教室の指導内容などのご案内などをしています。

《指導形態》

〔算数 国語〕 講師が複数の生徒を個別に指導する形式の授業です。

- 予め決めた曜日、時間帯に受講します。(週1～3回)
- 生徒ごとに決めてある学習メニューを講師の指示にしたがって学習します。
- 曜日や時間帯によって、担当講師や受講生の数がことなります。
 - ・1人の講師が1～3人程度の生徒に対応
 - ・2人の講師が3～6人程度の生徒に対応
 - ・3人の講師が4～8人程度の生徒に対応 などのケースがあります。
- 担当講師は曜日で固定になります。
曜日ごとに同じ講師が同じ生徒を担当するかたちになります。
- 指導を始める前に、保護者の方との面談で、生徒ごとの受講教科、受講曜日、受講回数、受講の時間帯、学習メニュー等を決めます。
受講の時間帯は、開始時間を30分ごとに決めて頂きます。
- 学年によって授業時間は異なります。
〔1, 2年生が50分程度、3, 4年生が60分程度、5, 6年生が70分程度〕
- 宿題は基本的に毎回出します。
保護者の方との相談で決めた内容と量を目安にします。また家庭や学校行事等の都合に合わせて宿題の量を調節します。

【授業の流れ】

- ① 生徒は自分の曜日、時間に入室し、宿題を提出してから、指示に従って個々の勉強を始めます。
- ② 前回までの“直し”があればそれを終えてから、次の範囲へ進みます。
当日分の内容も“直し”をします。
- ③ 提出した宿題にも直しがある場合は、それも直します。
- ④ 学年で学習時間の目安が決められていますが、その日の進み具合などを考慮して講師が終了の指示を出します。
- ⑤ 講師(塾長)の判断で個々の生徒の学習が終了となります。
- ⑥ その日に出される宿題を受け取ってから退出します。

〔英語〕 1対1の完全個別授業です。(40分授業)

- 水曜日と土曜日の固定した時間帯に行います。
- 事前に連絡をいただいた場合は振り替えができます。

〈受講例〉

○月曜日 (16:30～)、木曜日 (17:30～)、金曜日 (16:30～)	算数+国語
○月曜日 (16:00～)、木曜日 (16:30～)	算数+国語
水曜日 (15:40～)	英語
○火曜日 (17:00～)、金曜日 (17:30～)	算数
○月曜日 (16:30～)	国語
土曜日 (16:20～)	英語
○火曜日 (16:30～)	算数
土曜日 (15:40～)	英語
○金曜日 (17:00～)	算数+国語
○木曜日 (17:30～)	算数
○火曜日 (17:00～)	国語
○水曜日 (17:40～)	英語

《コース》

[算数 国語] (少人数の個別授業)

受講教科と受講回数をご希望に沿って選択していただきます。

受講科目 算数のみ、国語のみ、算数と国語から選択となります。

受講回数 週1回、週2回、週3回から選択となります。
※英語の受講とは別の扱いになります。

◎受講科目、受講回数ともに年度の途中でも選択を変更できますが、月の途中での変更はできません

受講曜日 月曜日、火曜日、木曜日、金曜日から受講回数を選択となります。

授業時間 1回の授業の時間は学年で異なります。

1・2年生	50分程度
3・4年生	60分程度
5・6年生	70分程度

授業の時間枠は曜日ごとに選択となります。

15:00～	15:30～	16:00～	16:30～
17:00～	17:30～	18:00～	

※授業の開始時間は曜日ごとに選択となります。

[英語] 週1回、40分の個別授業です。

◎受講科目、受講回数ともに年度の途中でも選択を変更できますが、月の途中での変更はできません

受講曜日 水曜日、土曜日から1回の選択となります。

授業時間 授業の時間枠は曜日ごとに選択となります。

15:00～15:40	15:40～16:20	16:20～17:00
17:00～17:40	17:40～18:20	18:20～19:00

《費用》

月謝 算数・国語（コース）、英語、完全個別指導の月謝の合計が毎月の月謝となります。

〔算数・国語〕

コース	週3回	週2回	週1回
1、2年生(1教科)	12,000 円/月	9,000 円/月	6,000 円/月
1、2年生(2教科)	12,500 円/月	9,500 円/月	6,500 円/月
3、4年生(1教科)	12,000 円/月	9,000 円/月	6,000 円/月
3、4年生(2教科)	12,500 円/月	9,500 円/月	6,500 円/月
5、6年生(1教科)	13,000 円/月	10,000 円/月	7,000 円/月
5、6年生(2教科)	13,500 円/月	10,500 円/月	7,500 円/月

※中学受験対応の場合、内容により 1,000 円程度プラスとなります。

〔英語〕 算数・国語と併せての受講は減額になります。

算数・国語と併せての受講	6,500 円/月
英語のみの受講	7,500 円/月

〔完全個別指導〕 こちらの費用は別紙「完全個別指導料金表」でのご案内となります。

教材費 3教科の教材費の合計が年度始めの年間教材費となります。

算 数	8,000 円/年
国 語	8,000 円/年
英 語	7,000 円/年

◎年度の途中でご入会の場合は一部減額させていただきます。

入会費 10,000 円

その他

- ★春期、夏期、冬期の各特別講習を受講する場合は、別途ご案内いたします。
- ★「東京都統一テスト」を受験する場合は、受験料(3,300 円)をご負担いただきます。
- ★英検対策は、個別の対応になります。
別紙「完全個別指導料金表」でのご案内となります。

【年間の授業回数、授業日程について】

通常授業

○小学部全ての授業は月に4週の計算で設けております。

算数・国語で週2回のコースの場合は月8回の計算になります。

ただし年に2回(盆、正月)、教室としてのお休みをいただきます。

$$4\text{回/月} \times 12\text{ヶ月} - 2 = 46 \quad \underline{\text{年間46週分}}$$

○授業日は学校行事や当教室の事情等により祝・祭日、連休等を考慮しながら授業日を指定させていただきます。

○3ヶ月ごとに事前にお配りする『授業日予定表』でご確認頂きながら通塾していただきます。

※月により、各曜日の実際の授業回数が変わりますが、年間の回数は固定です。

※事前に欠席の連絡がある場合は、振り替えの対応をいたします。

〈夏休み〉

長期の帰省や旅行などにより、多くの生徒は通常の曜日に通塾するのが難しい状況になりますので、夏休み中の算数・国語については教室が指定した日の中で相当分の回数の学習日を選んで頂くこととなります。希望日は事前に提出して頂いて調整いたします。夏休み中の授業は通常授業の曜日に関わらず授業日を選択できます。

〈冬休み〉

小学校の日程とほぼ同じ期間が教室の冬休みとなり、この間の通常授業はありません。

〈春休み〉

小学校の日程とほぼ同じ期間が教室の冬休みとなり、この間の通常授業はありません。

特別講習

夏休み、冬休み、春休みにはそれぞれ「夏の特別講習」「冬の特別講習」

「春の特別講習」を行います。受講希望の生徒が受講します。

※「春の特別講習」は学校の春休みよりも早い時期に開始となる場合があります。

※具体的な日程等のご案内は、講習の時期が近くなった頃に配布します。

【授業の振り替え、時間変更について】

以下のような理由で授業を欠席、遅刻になる場合は、授業の振り替えや授業時間の変更の対応をします。

- ★学校行事やクラブ、他の習い事など
- ★ご家庭の都合（旅行等も含む）
- ★生徒の体調不良(病気やけがなど)、通院など

できるだけ無駄のない有効な授業を円滑に行えるよう、以下の点についてご理解とご協力をお願い致します。

《授業日変更(振り替え)をする場合》 [算数、国語、英語]

- 学校行事や旅行など、事前に分かっている事情での振り替えは保護者の方から早めにご連絡ください。
- 保護者の方からの連絡が難しい場合は生徒自身からの連絡でも結構ですが、ご家庭で確認をしておいてください。
- 体調不良や学校の終了時刻の急な変更など当日の突発的な事情の場合を除き、前日までにご連絡を頂いた場合のみ振り替えをさせていただきます。ご了承ください。
- 急な事情でお休みする場合でも極力授業前にご連絡をお願いします。
- 授業後も含め当日中に欠席のご連絡がない場合は、理由に関わらず振り替えはできません。ご了承ください。
- ご連絡は電話、メール、書面(メモ等)のいずれも可能です。
- 算数・国語の振り替えは、通常授業日の中でお願いします。
- 英語の振り替えは、土日での対応となります。
- 振り替えの希望日時は後日に決めてご連絡いただいても結構です。
- 振り替えの日時は欠席日の前後2週間以内の範囲でお願いします。
- 振り替え日の再変更はご遠慮ください。

※算数・国語の振り替えの際は次のことをご了承ください。

- ①振り替え希望の重複や教室の事情等の理由により、ご希望の日時での振り替えの対応ができない場合があります。
- ②振り替え授業の際、通常の日時で授業を受けている生徒の指導への影響がないように配慮しております。基本的に通常通りの内容で指導をしておりますが、採点や説明、宿題渡しなどの際に通常の生徒を優先して対応させていただくことがあります。

《時間変更をする場合》

〔算数、国語〕

入室時間が本来の時間から15分以上前後してしまうような場合は、以下のような対応となります。

○予定が分かっている場合は必ず事前にご連絡ください。教室が対応できない場合は振り替えとさせていただきます。

○事前の連絡なく、15分以上早く入室した場合は、しばらく待ってから授業開始となることもあります。

14時30分より前の時間帯は、対応できない場合があります。

○事前の連絡なく、15分以上遅く入室した場合、その分だけ授業の終了時間を遅らせる対応ができないことがあります。その場合は授業時間が短縮されることとなります。ご了承ください。

〔英語〕

授業の前後に他の授業が入っている場合が多いので時間変更は難しいですが、空いている時間帯があれば当日でも受講できます。当日に授業を入れられない場合は他の日に振り替えていただくこととなります。